



新撰

造化

懷妊

論

池谷文一郎編輯

全



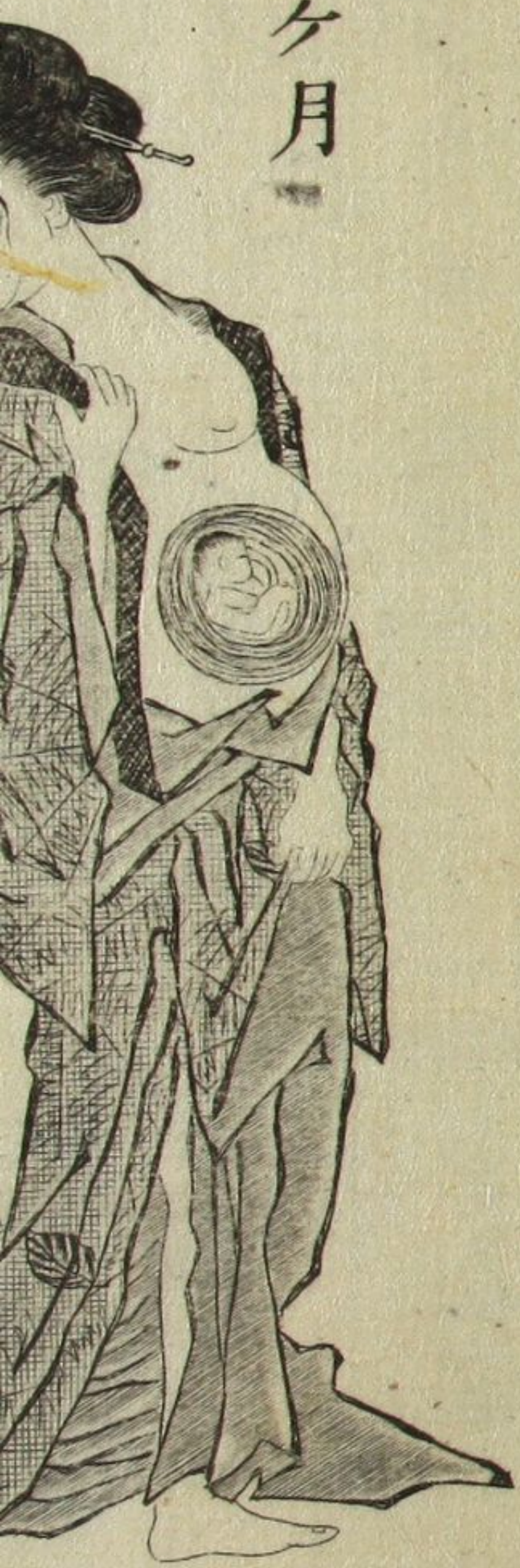
地 球 大 洪 水





五
夕
月





六
夕
月



五
夕
月

四
夕
月



二
夕
月



三
夕
月

一
夕
月





五ヶ月

六ヶ月



七ヶ月



八ヶ月

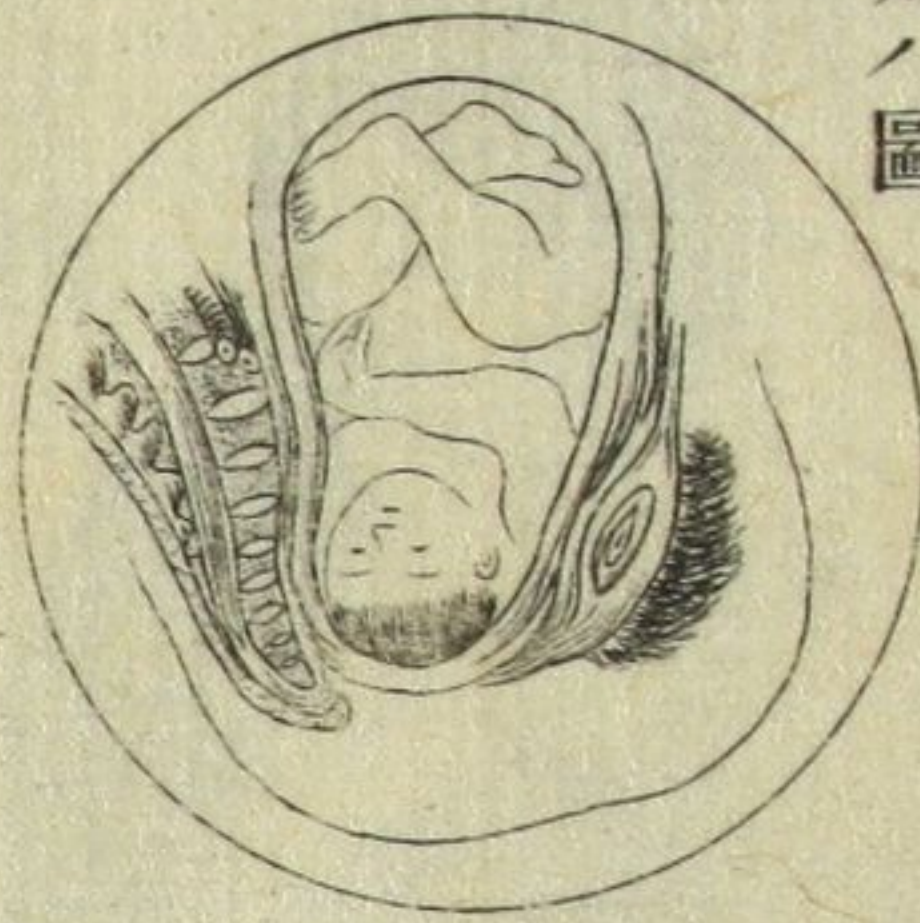


九ヶ月



十ヶ月

胎兒十月ニシテ生レント
スルノ圖



双胎ノ圖

横産ノ圖



腎産ノ圖

逆産脚先ニ出ル圖



腎産の兒を挽出ノ圖

造化懐妊論目錄

一 陰莖 同圖

一 辜丸 同圖

一 辜丸比落着

一 精囊

一 陰經比論

一 外器 一名陰處 同圖

一 陰山

一 大陰唇 一名陰唇

一 小陰唇 一名尿翹

一 挺孔

一 陰庭

一 尿道

一 處女膜

一 陰門繫帶

一 會陰

一 內器 同圖

一 子宮

一 喇叭管

一 卵巢 同圖

一 乳線

一 月經

一 月經

分娩

妊婦子宮血脈之圖

子宮筋纖維内層之圖

同外層之圖

兒頭骨盤下口に臨む圖

足月孖胎之圖

安産

手と以て胎蓋と出を圖

子宮收縮をて沙漏形をなす圖

難産

臀部先出時頭部を引き出を圖

鑷子と腔に入る、圖

鑷子と以て兒頭を扱む圖

兒頭を碎破く鑷子の圖

同く手術之圖

同く割出之圖

ウエグチス器械を用る圖

乳線之圖

造化懐妊論

陰莖

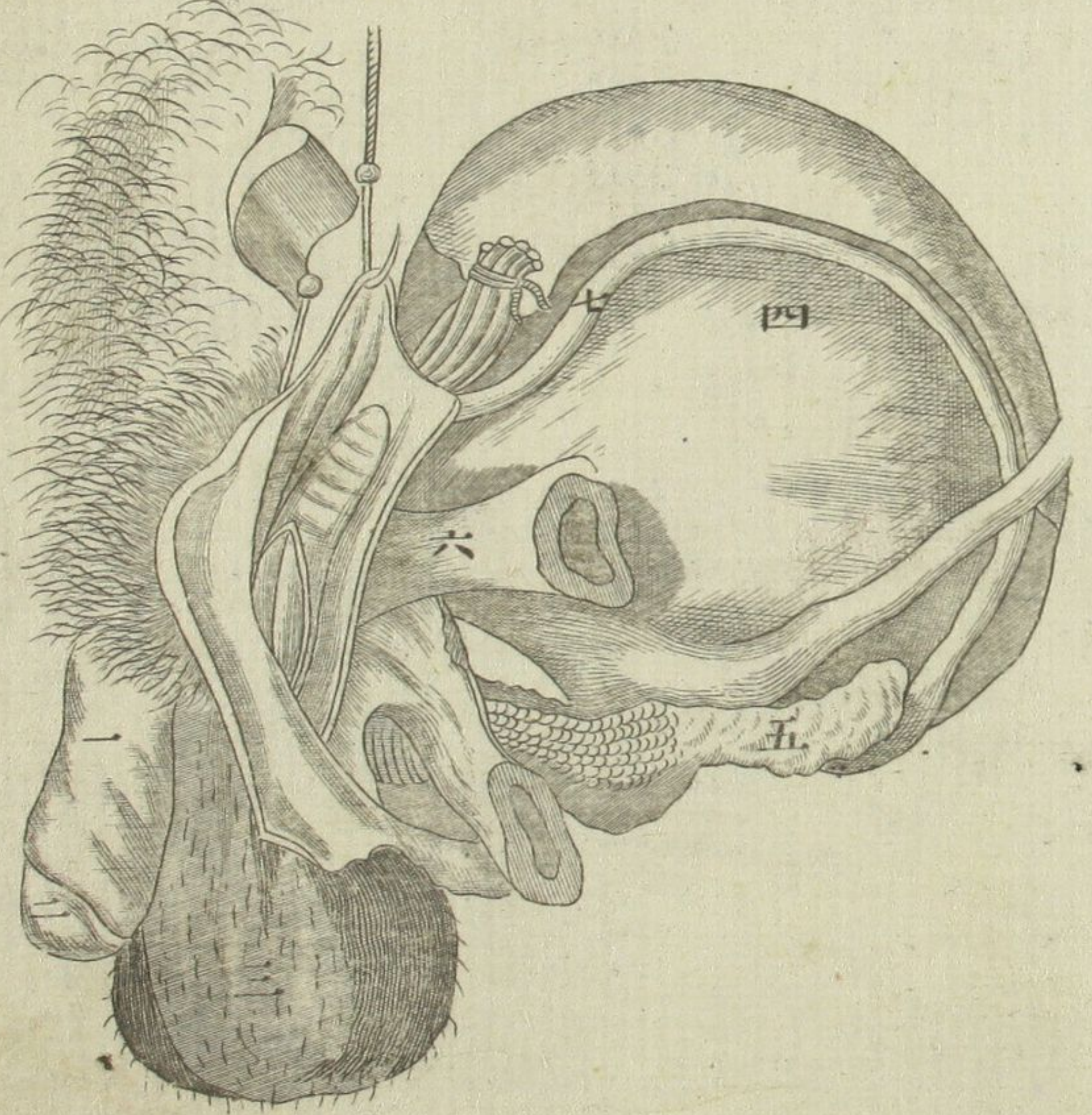
陰莖ハ根幹龜頭の三部分组成り其龜頭の形状ハ於るや
てうど圓錐の形状にして其上端には尿と輸り出す爲の穴
あり又其幹は三の圓き壙より成り立ち之と區別すれば即
ち二つの空洞体と一つの海綿体より成り立てり又此兩空
洞体ハ各強き纖維にて掩まれ又其内にも細脈勃張組織と
包み又其兩空洞体の間ハ中隔ありて之を隔つ而して海
綿体は空洞体の接く所の下即ち陰莖の根より起り龜頭の
中に入りて以て尿道を包むものなり

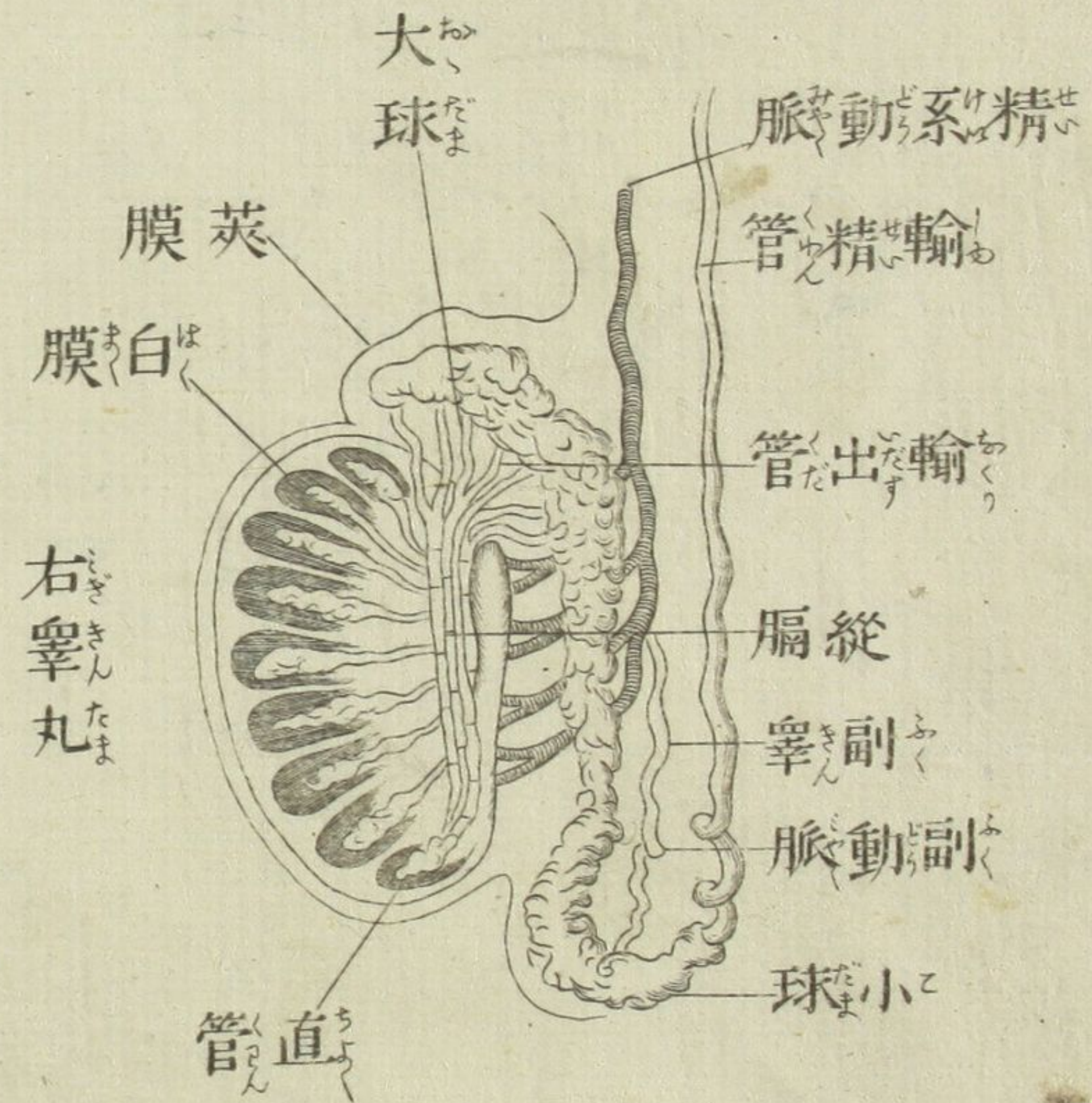
睪丸

睪丸ハ卵形比線1して二つの精系1由りて陰囊の中に掛

るものなり又其背面に副睪といふ長くして狭き形状のものありて上端は下端より大きく其上端を大球といひ下端を小球と言ふ又其大球は衆くの管を以て睪丸の上部と連り小球は其下部と白き膜とに連れり又總て左に掛る所の睪丸は稍々右の睪丸より其形状大ふるを常とす
 睪丸は大なる又小なる球が二百五十個より四百個位集りて成るものにて其球は圓錐のやうな形状をなし三個又四個は細精管が纏れ纏ひてこれをなすも此なり又此細精管を解き延せば直經は零厘四毛より五毛程又其長さは尤も長き細管に於て其數へ三百乃至八百もありて更に一叢は細毛此管にて其周圍を圍繞き其小球は後部に至りて直經一厘六毛程ある二十又は三十此直管となる

- 一 陰莖
- 二 龜頭
- 三 陰囊
- 四 膀胱
- 五 精囊
- 六 攝護線
- 七 輸尿管





直管の末へ上の方に上り行きながら諸管と連接り以て辜丸の綱となる又此辜丸綱の上端へ十二乃至十五の輸尿管一連り白膜を貫きて副金に通じ諸管の形此一至りて太くなり縋れ纏ふて圓錐管をなし副辜の上の端即ち大球となす下りて副辜の小球一至れば諸管の一管一連接りて益々纏纏ふ又此管を解き延せば二十尺よりも長きものなりといふ輸尿管は此管の末にして副辜の背面に於て小球より上の方に上り行き精系を経て下腹に入り遂に膀胱の底一至りて太くなり又細くなり精囊に連り射精管となるものなり

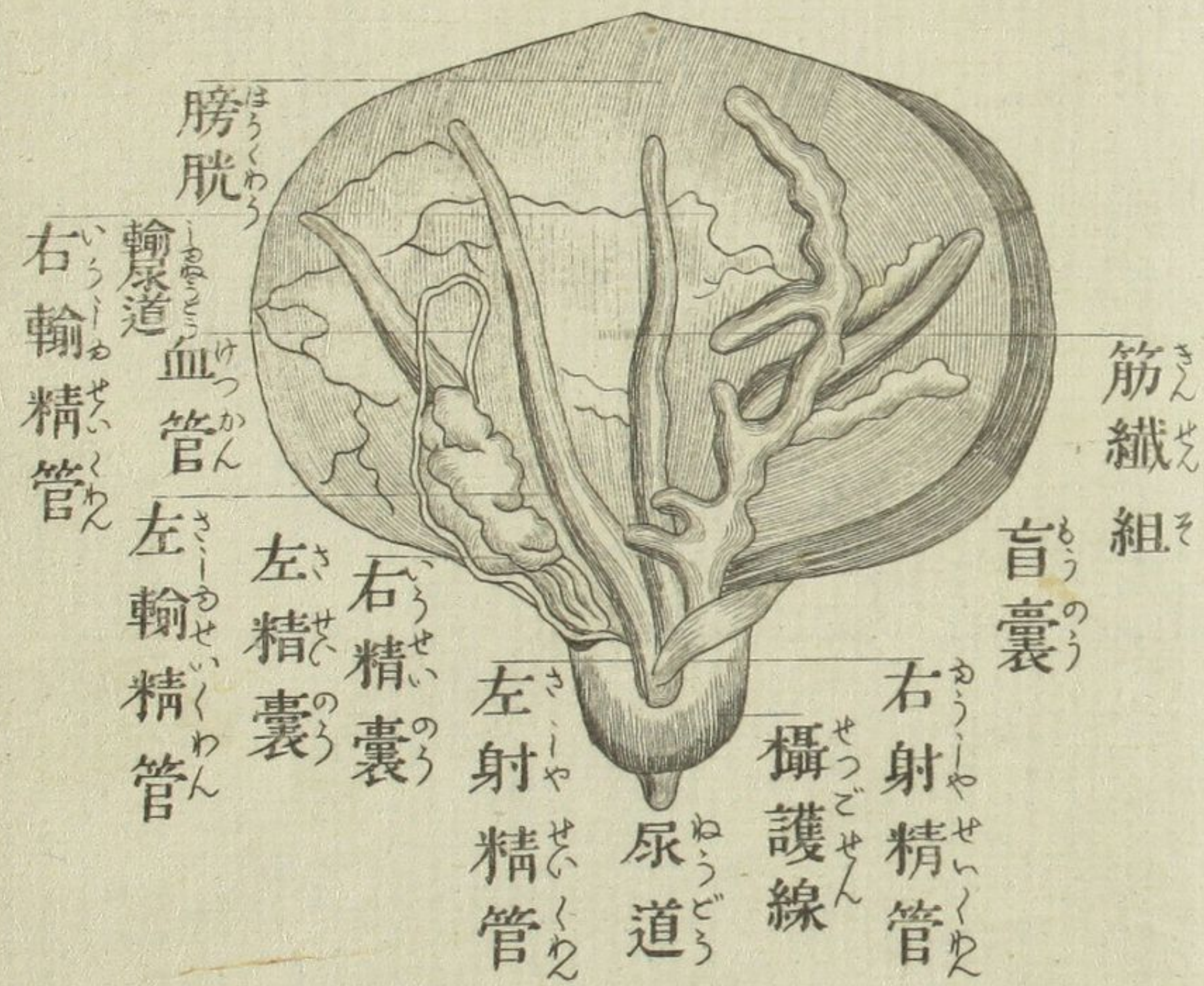
辜丸の落着

兒子胎中にあるの初めには其辜丸は腹の内の腎臓の下に

ありと雖も第七月目より下り初め第八月の終りには陰囊の裡に落ち着くと常とす又胚胎の初めには女兒の卵巢と男兒の睪丸と其位置を同ふす又女兒の子宮の圓韌帯には睪丸の落着くと相似たる變動あるものなり

精囊

精囊と小球膜囊にして膀胱直腸の間にありて左右の兩囊に分れたり是れ精液を貯ふる所の器にして囊中別に自己の分泌ありて精液と混合る又其長さは二寸廣さは四分ありと常とす然しなごら大小は人に因りて同じからず精囊は直經鷲毛管程ありて長さ四寸八分程ある一本の管の纏纏ふて之に小枝を生じたるものなり又射精管は長さ六分程ある管にして攝護腺の底より起り上の方前面に進み尿



筋織組

盲囊

右射精管

攝護腺

尿道

左射精管

右精囊

左精囊

左輸精管

右輸精管

膀胱

輸尿道

血管

道の蓋状竇に入る

精蟲は細小なる織糸にして睪丸中に分泌せる精液中に見るべし其首端へ卵圓形をなし末へ細くして尾の如し其形ち恰も蝌斗の如く頭と尾を備るに似て且つ運動あるを以て小虫なりと云ふ誤謬を惹き出すに至れり又精液を顯微鏡にてみれば直經零厘二毛程の小精球を含めりといふ

陰經の論

婦人の生殖器も内外の二つに分つ外器は陰山大陰唇小陰唇挺孔處女膜なり又内器も子宮卵巢喇叭管なり又乳房も生殖器の中一算へ入るゝことあり

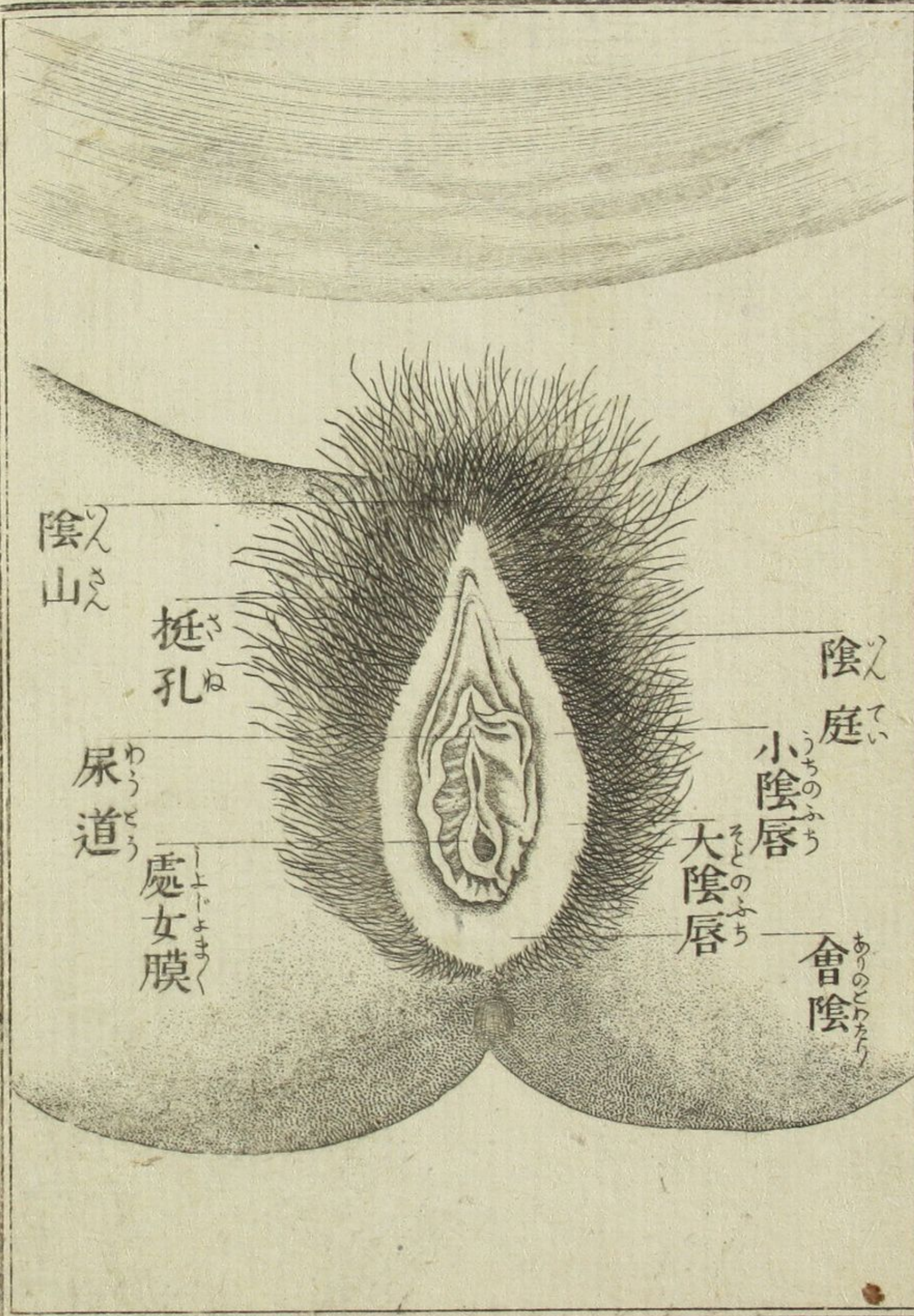
外器一名陰處

陰山

陰山へ耻骨の合縫の上に掩ひたる坐褥様の高まりにして下腹の下元然と高き處則ち是れなり其形ハ三角形にして婦人の身熟すれば其上に陰毛を生ず其物とる蜂窠脂肪の二組織より成れり

大陰唇一名陰唇

外陰唇は陰部を覆ふ兩褶として陰山の下より起り下方に至りて陰部の兩傍をなす所なり其外面は陰山の如く陰毛を生ずべし又内面は粘液膜を以て掩ふ其形上の方は厚くして潤く下の方も次第に薄くして搾まし其上の方の兩唇の連なる處を前縫接と云ひ下の方の相連る處を後縫接又は陰門繫帯と云ふ其外皮と粘液膜との間には蜂窠脂肪の二組織神經血管及び腺あり



小陰唇一名尿翅

尿翅わねも外陰唇そとの内うちにある褶ひだふして粘液膜ねんえきまくと以て掩おはれ陰部いんぶの上うへの方ほうより起おこりて陰門いんもんの中なかべに至いたる粘液膜ねんえきまくの間あいだには海綿空洞組織かいめんくうどうそしき及び神經しんけいありて挺孔ていこう尿道せうだう及び陰門いんもんの中なかべを掩おひ包つつむ外陰唇そと同様に彈力ひくちからありて擴張ひろがるべき質あつを備そなへ胎兒はいごの頭かぶりを出ですに便べんならしむる様ようにしたるものなり

挺孔

挺孔ていこうハ男子おとこの陰莖いんけいに似にたるものなれども尿道せうだうなく海綿体かいめんたいなし其物そのものたる甚はなだ感かんじ易やすく空洞くうどうにして勃起おこするものなり又其位置そのちゐハ恰あやうも尿翅わねの相合あひあふ處ところにあり

陰庭

挺孔ていこうの下したに滑なめつき處ところあり其形そのかたち三角形さんかくけいとなす之これを陰庭いんていと

云ふ其下邊ハ則ち尿道の口1して尿道の口ハ恰も陰門の上縁にあり

尿道

尿道ハ恥骨合縫の下より膀胱に通じ尿を輸り出すところの管に於て其長さ一寸二分程ありて擴張べき膜にて包めり

處女膜

處女膜モ陰門の下部を蓋ふ半月形の粘膜に於て通常初めて男子と交はるとき破裂するものなれども必ずしも然りとせず怪我病ひ等種々此事より破る、ことあり失ふふとあり又生れながら無きものあり娼妓に此物存せし例しもあり然れむ醫人の察病に當りて此膜に關係あるふとハ輕々しくなすふと勿れ

陰門繫帶

陰門繫帶モ後縫接の内縁1して粘液膜より成り初産のときハ通例少く破る、ものなり

會陰

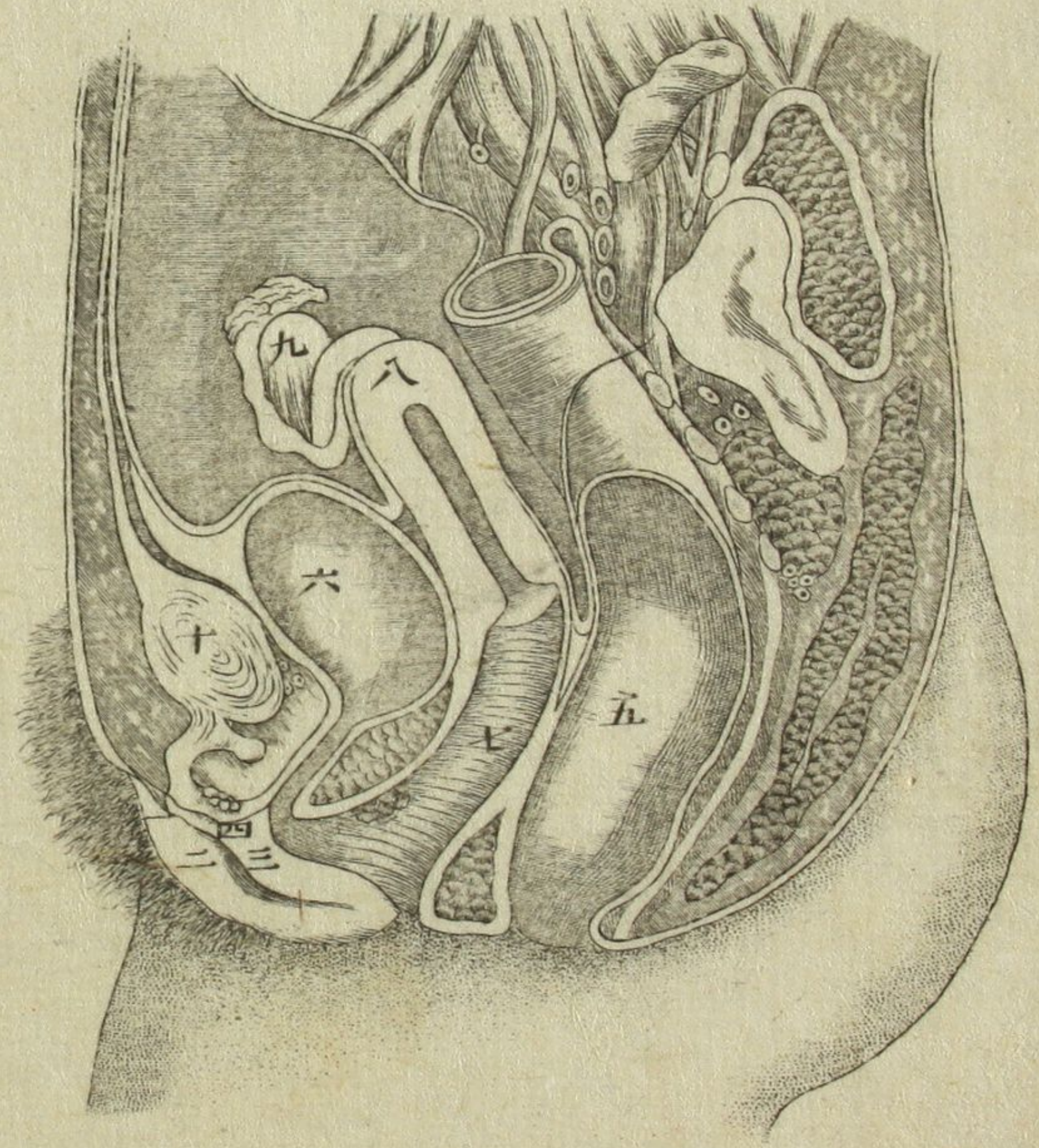
後縫接と肛門の間を會陰と云ふあれハ外皮及び蜂窠脂肪の二組織より成るものにして半ハ尻骨盤の外孔を塞ぎ子宮の脱出を防ぐの用あるものなり其質弾力ありて擴張べきも此なれども子を産むに臨み時としてハ裂くるふとありとす

内器

腔

腔ハ筋膜管にして其長さも前壁に傍ふて測きバ三寸二分よ

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十
 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十
 耻骨 卵巣 子宮 陰道 膀胱 直腸 尿道 小陰 大陰 孔 唇 唇 口



り四寸程あり又後壁に傍ふて測まば稍々長し其形ハ子宮
 頸より下の方前面に向ひて弓なりに曲れり其入り口此處
 を陰門と云ふ又腔の内皮ハ粘液膜にして中皮ハ筋膜外皮
 ハ蜂巢膜あり是れ交接れとき陰莖を容るゝ處にして胎兒
 の産るゝも又此門よりす

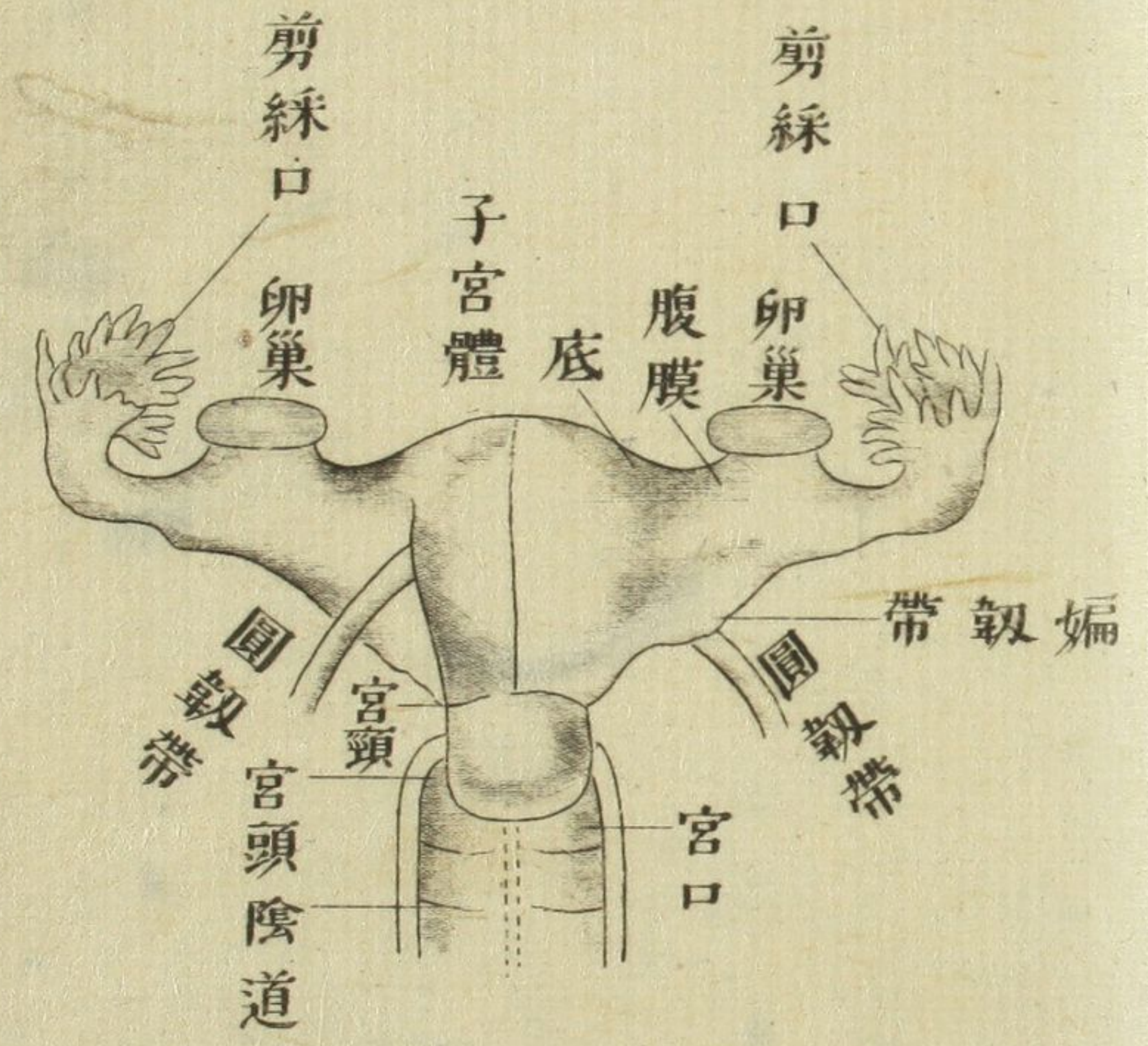
子宮

子宮ハ其形梨子の如く其上部を底或ハ頂と云ひ中を體下
 と頸と云ふ其全長さ二寸二歩程あり其廣さの最も闊き處
 ハ一寸八分程ありて厚さハ一寸程あり其在る處ハ尻骨盤
 の中心にあつて上ハ小腸あり下ハ腔あり前ハ膀胱隣
 り後ハ直腸に接す而して其上の方ハ前に向ひて下の方ハ
 後に向ふと以て腔と相傾けり子宮ハ中空なるものみして

其入り口を子宮孔と云ふ子宮孔は子宮頸の下端に開けり
 子宮孔の形は平圓なるものあり圓きあり或は三角なるあ
 り殊に子を産たす婦人の子宮孔は三角なるものあり
 子宮頸の溝は長さ八寸あり入口は擽く中頃へ廣く三
 角房に入る所へ復た擽し又三角房の底へ上へあるものなり

喇叭管

喇叭管は其長さ三寸二分程ある管として三角房の兩方の
 上角より出て二寸八分程の間へ其太さ變らば夫より開き
 て漏斗の如き形をなし腹孔に入り胚胎の事有んとすると
 きへ其開きたる處動きて兩卵巢に向ひ卵珠を下し精蟲を
 迎ふるの用をよす

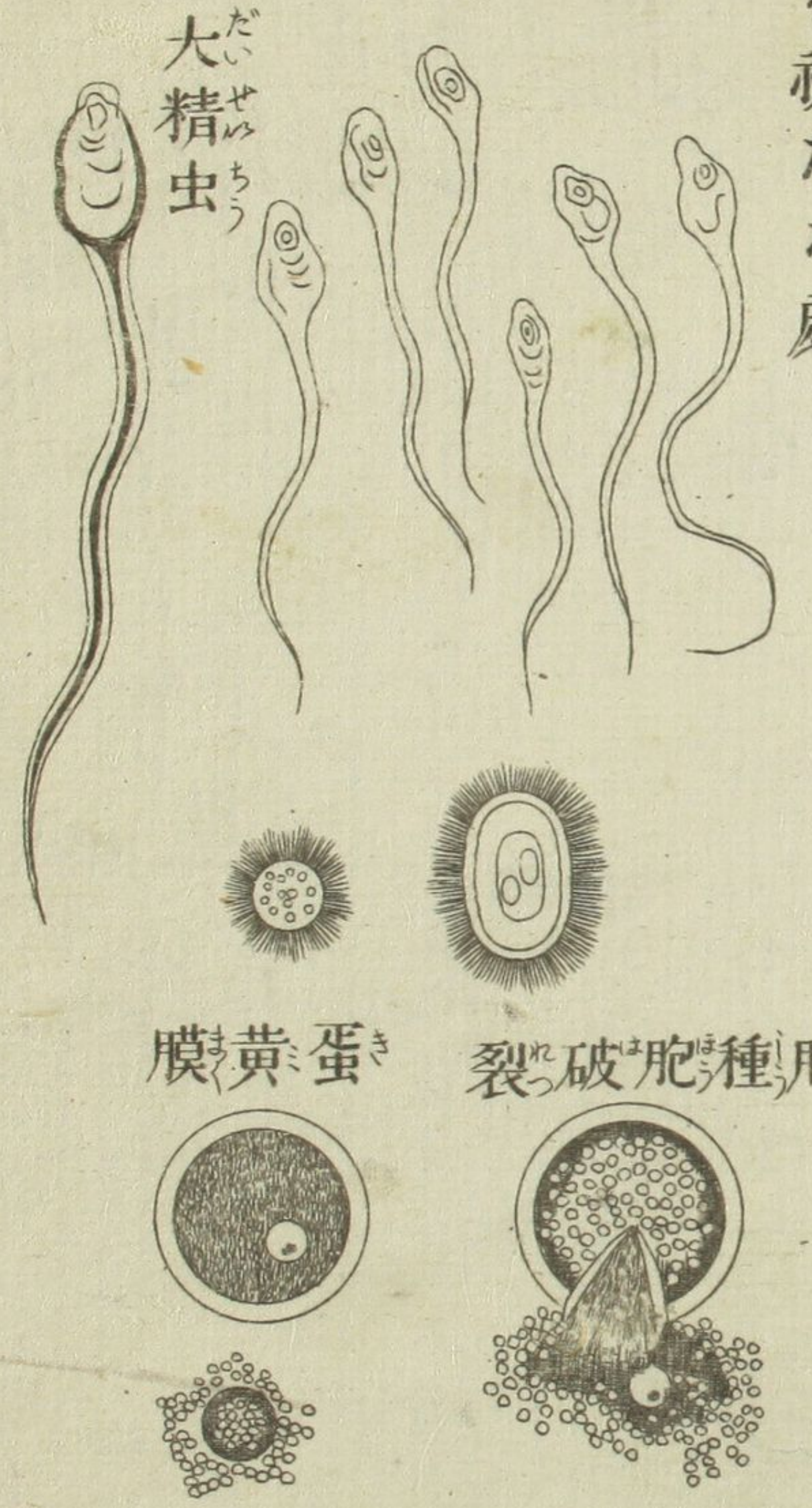


卵巢

卵巢ハ男子の睪丸の如く生殖器中最要の器たり其形ハ長
 一寸廣き五分厚さ三分程ある匾き小体にして子宮の兩
 邊あり又卵巢の中に十乃至二十個の虞喇弗胞を有つ
 其小ふるものハ針頭の如く其大ふるものハ豌豆ほどある
 ものなり
 虞喇弗胞ハ圓くして透明る細胞体にして卵球を包むもの
 なり又其卵球の大ききハ零釐四毛四の直徑あるを常と
 す澄みて清りあなる流体これを包む卵熟すまば虞喇弗胞
 此形狀大きくなり卵巢此表面小浮き上り遂に破裂て卵球
 と出ま又此卵球ハ喇叭管より子宮に入り男精に逢ふて胚
 胎せざれハ大概經水と共に下るも此より

顕微鏡よて精虫
 を視たる處

卵種之圖



大精虫

膜黄蛋

裂破胞種胚

乳線

乳房へ第三第七肋骨間一ある二ツの半球形此線に於て
 纖維囊を以て其上を掩ふ此纖維囊此末へ線此諸部に入る
 ものなり纖維此物たる無數小管一して枝を生じ益々分
 れて益々細く遂一乳汁たるべき小胞体中に入る此小胞ハ
 細小管中一進み入り屈曲旋轉て漸次大小管此中に集入り
 線此中心一達り十乃至十五此大管に集り乳頭此下に集合
 す乳頭ハ第四肋骨と水平となし勃張組織を有す故に之れ
 に觸れて鼓動すれば忽ち勃張も此なり

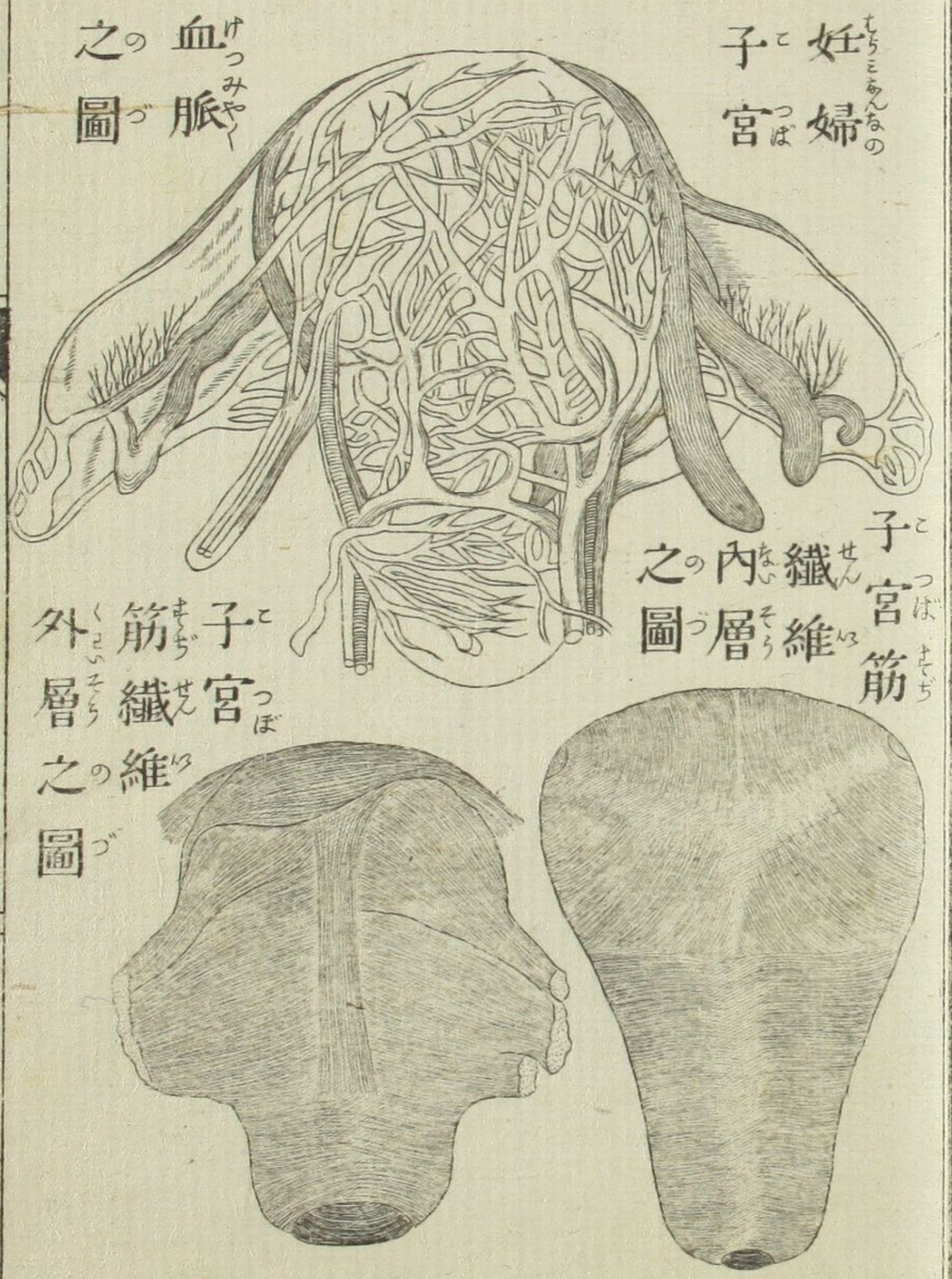
月經

人幼きときハ男女の間一未だ著しき區別立たざるものな
 り然しながら年漸く長ずるに及びて一朝忽然に大變化を

生じ此時より男女の區別判然と考て明りなり此時に達き
 たるを成年と云ふ即ち男女人となるの時より女子此齡に
 達する時ハ其全身圓くなり尻骨盤ハ廣がり生殖器ハ成熟
 す此時一當りてハ腔より血を流す之を月經と云ふ此後毎
 月一回の流血ありて多年の間絶ゆることなし
 月經ハ地方寒暖の同じありざる等より其初まる齡ハ均し
 かりざれども米國一てハ十三歳乃至十五歳より初まり四
 十五歳に至りて終るを常とす懷妊中孩兒に乳を飲ましむ
 る間にハ月經なしとす月經の終り絶ゆる時ハ女身の健康
 に種々此變動あるも此ふり初めて月經あるときハ兩股及
 び脊に痛を起し且つ頭痛惡寒等ありて神經を病ましむる
 ものふり此後とても初めよりハ少しく減ずるも多しハ

右の如く痛とあるものあり然しながら後一へ全く此痛み
 起らずして平世一變りざる婦人もふきにしも非ず
 月經ハ二十八日毎に一回あるを正しきも此とす而も其
 日數ハ四日乃至一週間にして平均五日を常とす其平均の
 量ハ四十一匁七分程なり然しふら多くハ此概則一外づ
 れ人毎ニ種々一して一様ならぬものなり

分娩といふ婦人の子宮内に胚胎とる胎兒を子宮の外に産み
 出す事に於て人類に於てハ胚胎とてより二百八十日に
 産み落すを正しき分娩とす
 分娩に向つての子宮の働作も單に其筋壁の收縮ふあり而
 て此收縮ハ往々烈しき苦痛ありて俗一之を陳痛といひ胎兒



子宮の外に伴ふ事なり
 子宮の収縮は一陳痛毎に其大きさを減せしめ漸次子宮の内
 居る胎兒と子宮の外へ推し出すに至る又其胎兒は其
 間始終子宮の働作に順従ふものなり
 分婉を終ると雖も子宮の収縮するを止めざして胎蓋を推
 出し諸血管の口を閉て出血を防ぐものなり分婉の種類を
 區別する記者依て各々其所見を異しれども其單ふ
 して要あるは安産難産の二種を區別するものなり
 安産は其婦人他人の手を借りず能く自ら分婉する者
 といふ又難産は他人の補助に依り又甚しきに至りては器
 戒の助に因りて分婉するものといふ或る記者は頭部先出
 のみを以て安産となせりといふ

兒頭
 骨盤
 下口
 臨
 圖



足月子

胎之圖



安産

分婉此初と告る徴候ハ蛋白質此粘液排泄者血色より膀胱直腹此刺衝又ハ惡心く嘔吐を發し或ハ戰慄る等の殊痛あり分婉ハ之と三段に分ち其徴候各々殊異れバ條を別ちて以て左に掲載す

第一段は諸部の開擴にして三段中時間を費す尤も多く身體を疲勞る事最も甚しきも此なり此時に當るや産婦も憂心胸々として心中甚ど安易ならず口中には苦を唱へ身を動ゐして苦痛を忍ぶ一便せんと考て其苦痛の甚き及びて叫ぶ聲は高りざれども頗る悲哀を起し口一悲哀の聲あり顔色に堪え難き此色を顯し其聲の殊異なる一とたび耳に入る時ハ終一忘れ難きに及べり又惡心く往々嘔吐

氣を發し殊に難儀ふるも此よりと雖も之等ハ開擴を速すみにするの益ある事と云へり

産痛といへるも此ハ通常腔前つうじやうちゆうぜんの八丁の圖を參考すべし此

上部と背部うへぶとへいぶ一あるものとして其痛みに發歇ありて其苦痛

の銳き事さうじやくさぶら切きるが如く裂くが如しと雖もよれ皆子

宮頸の開擴に因て然るものよるべし

陳痛ちんどう比増すに従ひて産婦さんぶ比脈搏みやくハ彌々急速いやくなり陳痛比減

に従て脈搏も亦た遲緩ちくわんなる故に分娩漸くその極度に達り

胎兒の産れ出んとする時ハ其脈搏比急きゆうなる眞に其極度に

達すべし

右に舉る所も陳痛の起る度たび毎に操り返し子宮孔前しきうこうぜんの八

丁の圖を見合すべしの開擴充分の度に達して止むものな

り又此陳痛ハ其歇止間ハ短くして痛みのある間ハ甚だ長

きものなり

第一段の全段中痛みの起伏して止むとのなきものハ胎兒

を推し出す爲ためにするものハ少くして其通路を整齊せいせいするが爲

にするもの多し又子宮孔の子宮底に正對と子宮軸の尻骨

盤上峽の軸に適合するとハ開擴に甚だ便べんふり若し然らざ

れば開擴ハ多少の不便を發すべし又如斯く子宮孔の開擴

に於ては第一段を終りたるものとすべし

初産に於てハ其子宮孔の開擴ハ容易やういよりざるを通常とす

故に其子宮孔の開擴べき時に於てハ引き張るが如く又凸

きもの、中より出るの如き感覺あり此物を水袋みづふくろといふ是

身膜の羊革膜やうかくまく腋あしを包むものにして陳痛の起伏するに従ひ

或ハ張り或ハ弛むものより此物子宮の開擴を助ると猶ほ尖木の木を割く一異ならず兼て胎兒の強壓を防ぐの功能あれば子宮孔に充分に開擴する迄ハ敢ておれに觸きざるを善とす又膜の破るに及んで液の逆り出るありおれを水囊破裂といふなり

第二段ハ推出しに因て胎兒は産れ出るに異るも此一して諸現象ハ第一段と異る所あり開擴既に終りて胎兒を推出す爲の子宮の收縮ハ増々甚しくなり腹筋及び呼吸筋ハ大いに之を助け陳痛長くして且つ苦痛も亦烈しく其間ハ始終喉口ともに閉て呼吸筋ハ堅固ニ支柱となりて腹筋の緊張ニ抵抗を腹筋ハ此抵抗あるが爲一胎兒を上レ方へ引き揚ぐるに能はず其全力を盡して以てこれを下の方へ

推し出さるを得るなり腹筋の緊張は全く自然のものなりと雖も其間ハ産婦の自奮に属するもの少なからずとす此時に當りての産婦の叫びも第一段の悲ミ叫ぶとは自ら殊異なる所なるより又陳痛近付けば産婦ハ手近の物品を取て手足腹胸又背中の諸筋を張りて以て其勢力を助るときながら秘結癖の人の廁に登りて煩悶苦痛に堪るが如し膜の時として破裂ざるとありと雖も第二段の産痛の始に於て大概ハ破裂するものなり故一ある記者は此膜の破裂を以て第二段に始る所となすといへり胎兒の身体先出す部分も収縮に起る毎一必らず多少進み出て收縮ハ体歇毎に必らず少し退くと雖も前に比較れば猶ほ幾分か外方へ出るものとす若し一度進み一度退き

久しく舊位に止るゝ如きは諸部全く開擴り分娩するに先
立て柔軟なる諸部は綻裂する事あるべし故に漸次に進めば
此危害を防ぐに有要にして兼て尻骨盤洞は廣闊を證する
ものなり

第二段の間へ第一段の間よりも産婦は心惱しからず稍々
其氣力を取戻し少しく沈着たる思ひありと雖も若し第二
段の間長き時も陳痛は間に睡眠を催すものなり殊に初産
に於ては然りとす又此睡眠は爲に産期を延し充血の憂頭
痛も充血は徴候なりを引き起す事あるしとせず良く之等の
事一於ては注意すべし
先出部の出る間薦骨神経一壓迫おと最も強く夫が爲一兩
下肢一産變を引き起す事あり既に頭部先出したる時ハ殊

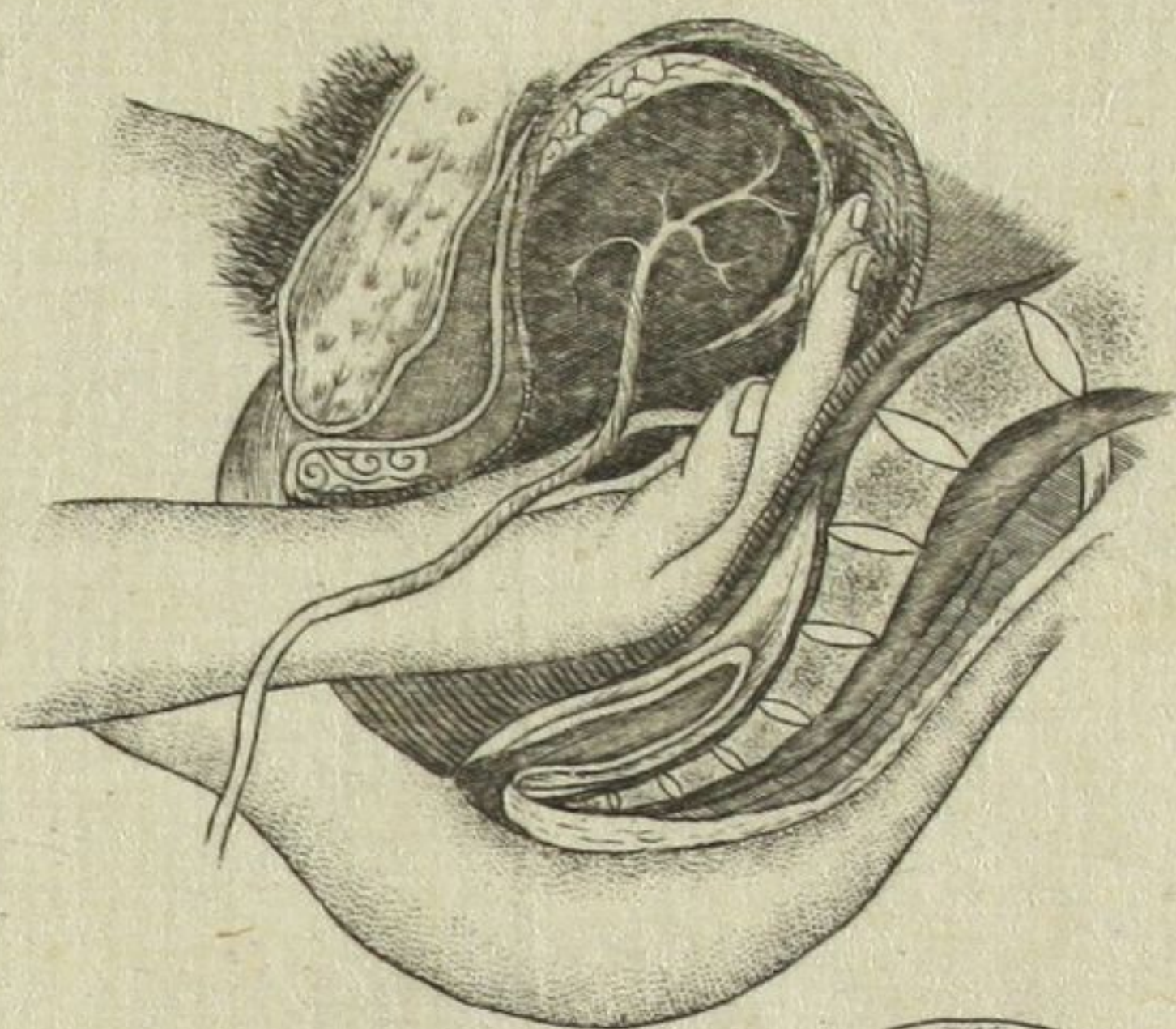
に然りとす

胎兒の頭部已に尻骨盤の縁に至り尻骨盤は洞を過ぎ去り
尻骨盤縁に來きバ骨盤下峽は柔軟なる部へ始て開擴り一
ト陳痛毎に會陰も開擴り又陳痛の休歇む間は少しく收縮
て稱々原形に腹せんとしても再び陳痛に襲きて開擴り陳
痛起り又休む間に一ト度張り一ト度收縮り遂に股の間ハ
脹出するに至る此時は當りてハ直腸ハ平匾なりて其中ハ含
有所れ物を排泄しそれ下端も往々反裡り胎兒は先出部ハ
一ト度進み一ト度退きて會陰の厚さ殆と一枚ハ紙に異な
りざるに至る此時胎兒は骨盤内一ト度進み一ト度退く
は實一子宮は缺くべからざる働といふべし又若し推し出
す此力激烈一過る時ハ會陰は綻び裂る一に至るべし又推し

出す此力即ち陳痛久しく休歇されば分娩として却て危か
 り去むべ考又柔軟なる諸部は開擴とき胎兒は天頭は陰門
 此縁に臨み肛門へ外方へ推し出され會陰も甚る開張り
 大陰唇も亦に開擴りて分娩の期方より迫り陳痛前に倍し遂に
 猛烈きを極るに至りて遂に其産婦も我慢に堪ゆる能はず
 知らず考て一聲の苦を呼ぶに至り此時に方て兒頭へ忽然
 と世界に顯るゝとなり
 此に至りて始めて數分時間陳痛伏退一陳の徴き痛を覺ゆるの
 みにして胎兒は全体へ全くと産れ出るより及ぶ
 第三段へ胎蓋は分娩にして時として胎兒と共に出るま
 とあれども多くは胎兒の産れ出たる後些少の間斷あるも
 のなり此間斷に於ても更に一定の極りなしと雖も大概は

二十分時を以て通常のものときれども或は之より短きも
 のあり又甚だ長きものあり其長き者に於ては一時間に至
 る者も又なしとせず然りと雖も若し一時間を過すとあり
 ば多少の申分あるものとす
 前よりいふ所の時間の長き短きを論ぜず分娩の後には必ら
 ず子宮の收縮力は前より比較しバ減少くなるものなり然り
 と雖も子宮は再び攣縮して腎蓋を推し出して腔に至らるめ
 腔又攣縮して終に之を腔の外に推し出すものなり又此時血
 液の逆り出るとは通常とす又此時膜囊は大抵反裡ると雖も
 手にて胎蓋を引き出す等に於る時を必らず反裡るもの
 なり

手を以て胎蓋を出る圖



子宮收縮少漏形をなす圖

難産

安産の條一記載したる三段中の第一段尋常普通ふ過て長きとあり然れども母子共一怪我なくして事を終るが如き分娩を難産といふ然りと雖も此時間の長き未だ羊膜液囊の破裂せざる故に胎兒一恙なく産婦も亦危きに至るといふ甚ど稀なり

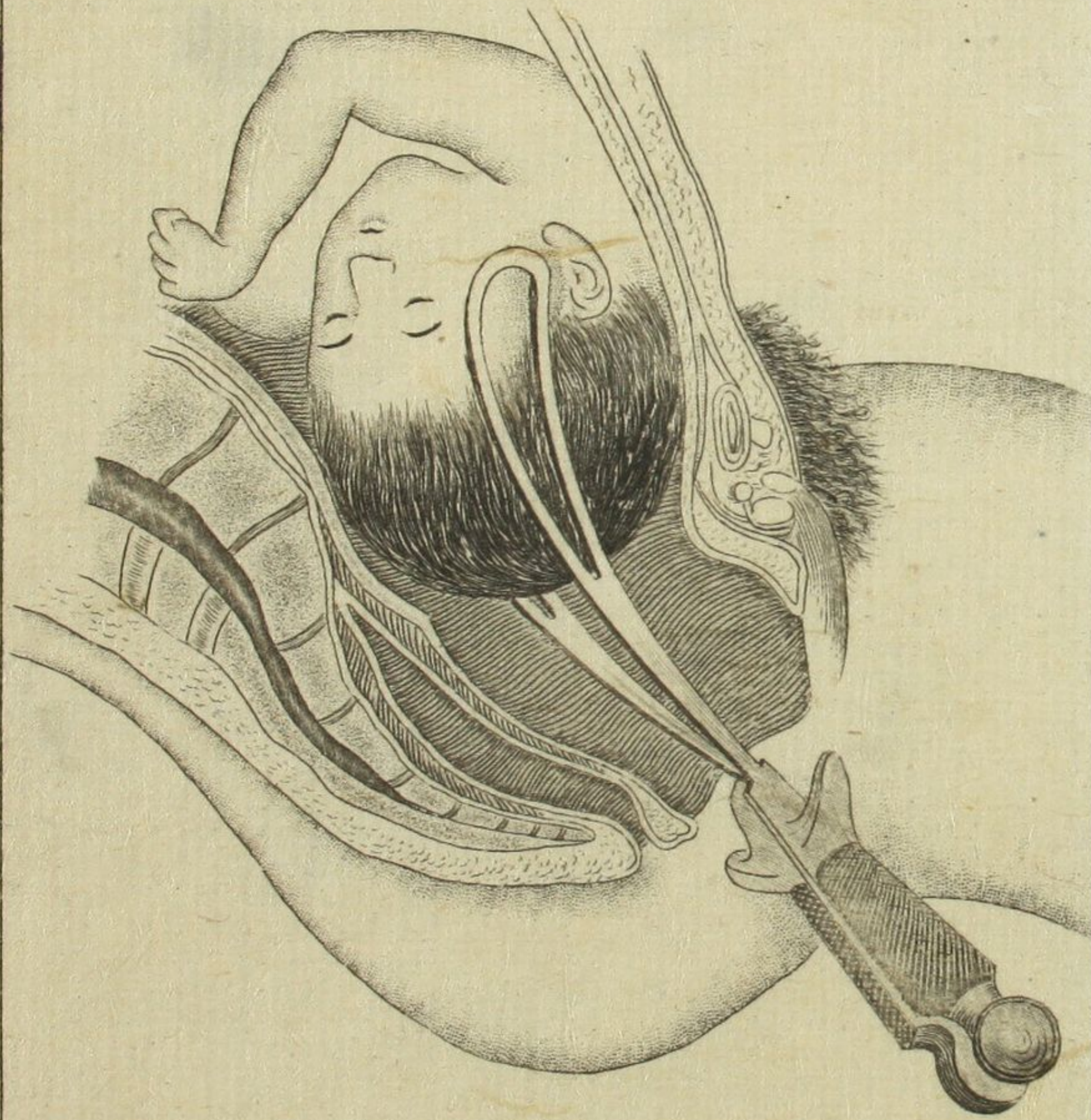
第二段は刺衝を得て産婦へ再び精神を取り直し終に安産に異りざる程の勢力を回復せざるありと雖も第二段中の時間長きは産婦の爲には甚と悪者又胎兒の頭尻骨盤の内に止ると八時間ある時ハ四人の中必りぎ一人ハ死する者なり又八時間を過ると僅なるも大抵子宮の痛み不極にたり痛くのと強くして其效驗なし膚乾きて熱し嘔吐を催ふ

し脈搏ハ急きうニシテ徹てつク口中渴かつキテ惡臭あくしうヲ發はつシ産婦さんぶノ身体しんたい漸々しんしん衰弱じやくじやくトス至いたリ此時このとき壓迫あつぱくヲ蒙あリ所ところノ諸部分しよぶぶんハ居部きよぶノ變へんト生なシ黄わうニシテ惡あくキ臭くさヒある蒸發氣じやうはつきヲ起おこシ益々いよく久ひさシシケレバ炎症えんじやう壞疽くわいじゆ之のニ續つク此時このときハ早はやク輕減法けいげんぽうヲ施おこなヒバ産婦さんぶノ苦痛くつう愈々いよく甚しんス半狂半愚はんきやうはんぐノ状態かたいヲ顯あらわハシ死あシテ其苦くるしみヲ免まルの外ほかニ決けつシテ道みちヲなをキ至いたルベシ

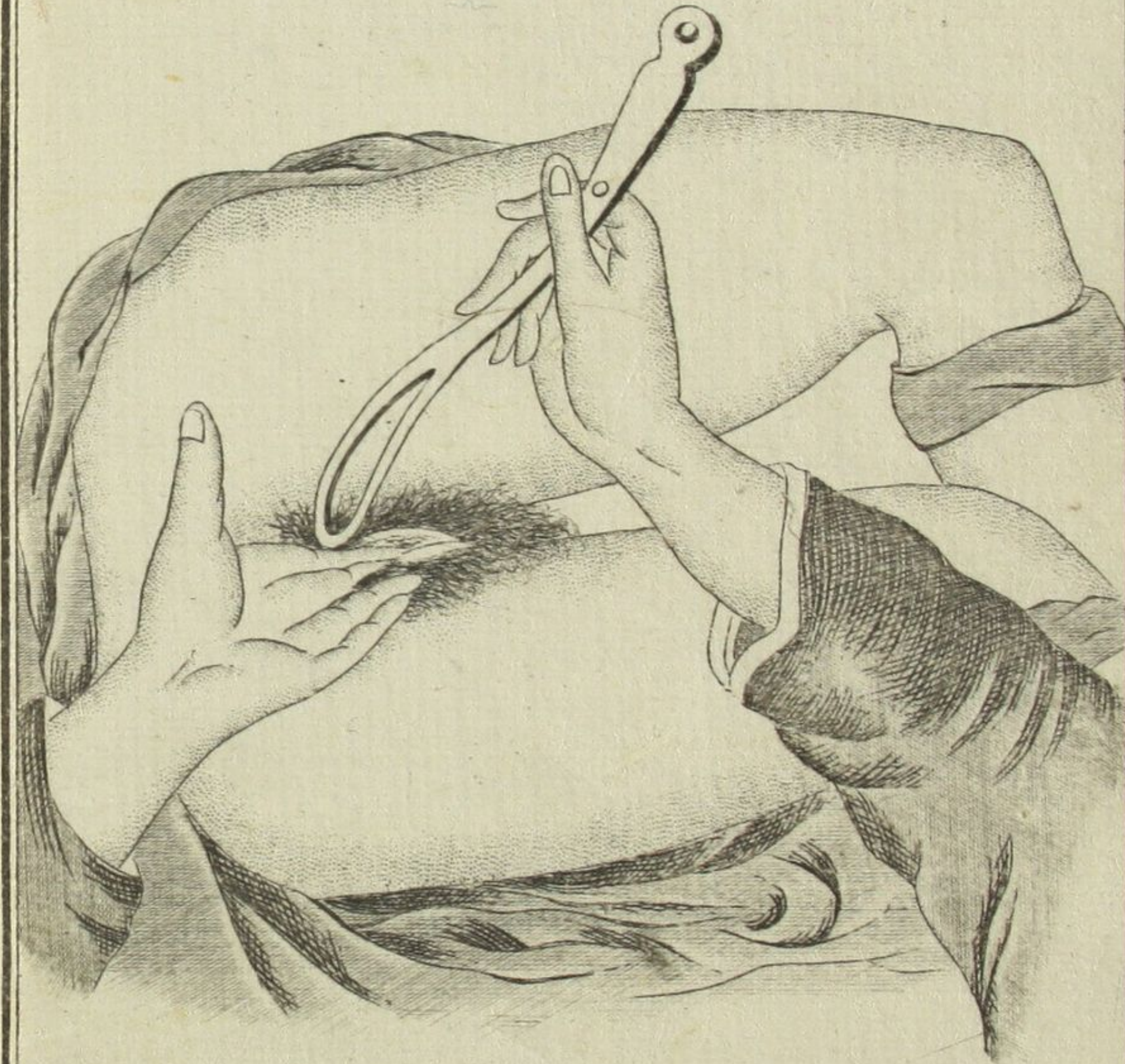
臀部先出の時
頭部を引
き出す
図



圖づ挟と頭とうてを鑷せ
むを兒こ以もつ子か



圖づろゝを鑷せ
、入ちの腔くわう子か



このくしり
兒頭を碎く
破く鑷子
の圖

鑷子を
以て兒
頭を碎く
破くの圖



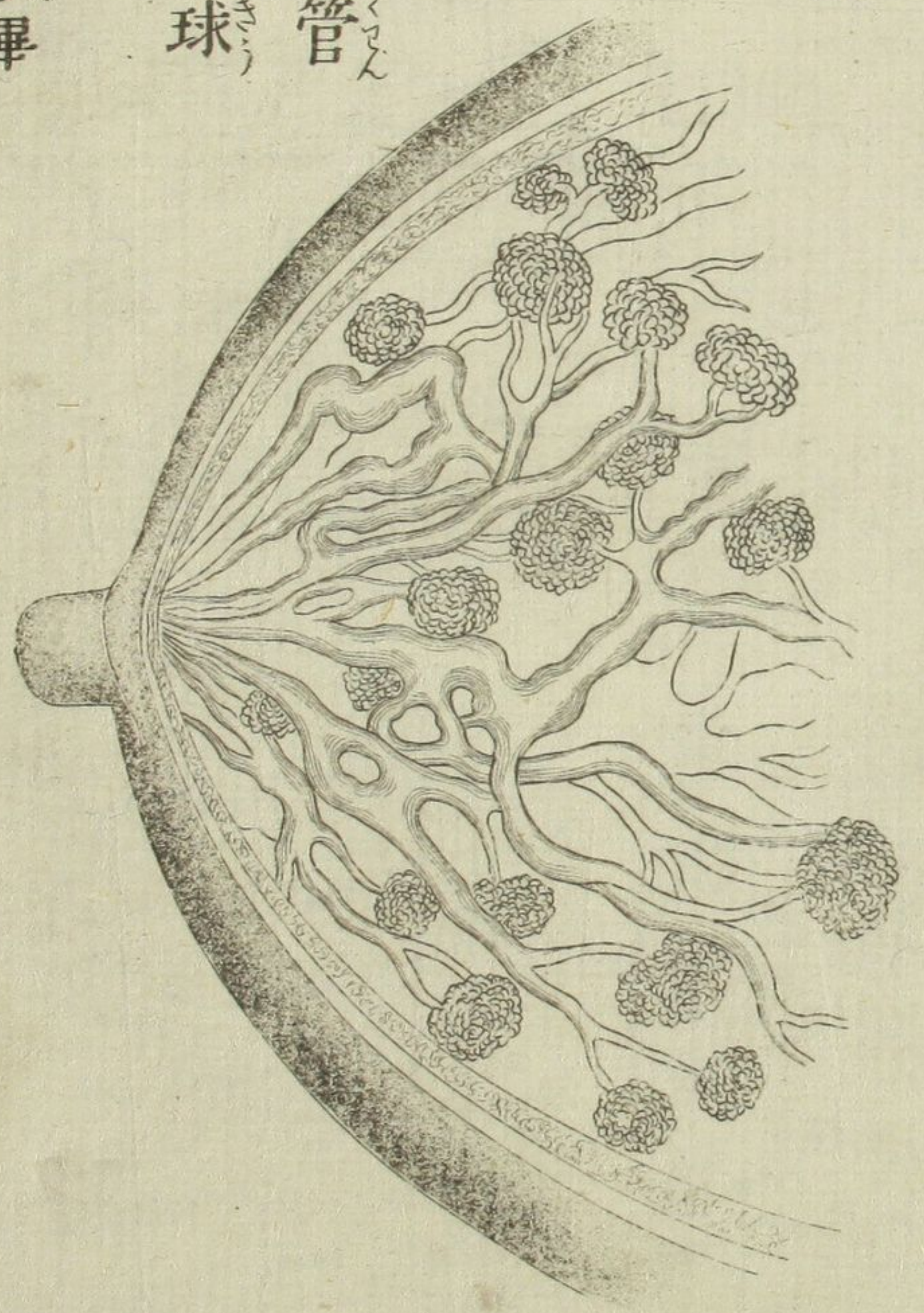
トトウ
兒頭を割
出たるの圖



「ウェクチス」の器械を用ふる圖



乳腺横斷の圖
斷の圖



(一)(二)
乳管
乳球

造化懐妊論畢

明治十六年九月三日御届

定價二十錢

東京府平民

池谷文一郎



日本橋區室町三丁目六番地

同

井上茂兵衛



同區馬喰町三丁目十九番地

同

三宅半四郎



同區大傳馬町二丁目十四番地



大賣捌

編輯兼
出板人

